

# 本学スキー実習における授業改善への取り組み (第二報)

—平成12年度および13年度の学生評価の比較から—

森尻 強<sup>1)</sup>, 栗原 祐二<sup>2)</sup>, 池畑 亜由美<sup>2)</sup>, 木村 博人<sup>1)</sup>

(平成14年10月3日受理)

## The Improvement of Physical Education Skiing Class through Student Evaluation (2)

MORIJIRI, Tsuyoshi KURIHARA, Yuji  
IKEHATA, Ayumi and KIMURA, Hiroto

(Received on October 3, 2002)

キーワード：学生評価, 授業改善, スキー実習

Key words: student evaluation, class improvement, physical education skiing class

### I. はじめに

近年, 各大学において学生による授業評価(学生評価)が実施されており, その結果を授業の改善や教員の資質開発に役立てる試みがなされている<sup>1)2)3)</sup>.

我々は, 本学スキー実習における学生評価の結果を昨年度紀要<sup>4)</sup>に報告した. その結果, 本学スキー実習は生涯スポーツへの導入などの目的を高いレベルで達成しており, 実習として効果をあげていることが明らかになった.

しかしながら, 以下の3点が今後の改善点として挙げられた.

- ①自己の健康管理あるいは体力を把握し, 維持増進していく方法や理論の理解をより深める.
- ②スキーにおける基礎的な理論をより理解させる.
- ③集団内でリーダーシップを発揮できる場面を多く設定する.

平成13年度は特に②の改善点に注目し, 授業改善に取り組むこととした. これは平成12年度の学生評価の結果が他の項目に比べて達成度が低かったことに加えて, スキーにおける基礎的な理論を理解することは, 自己のスキー技能の確認, さらなる技能向上への意欲に大きく影

響を与えると考えられるからである. したがって学生がスキーの基礎的な理論を理解することはスキーに対する意欲を喚起し, 生涯スポーツへの動機付けとして重要な要素であると考ええる.

### II. 研究の目的

本研究の目的は以下の2点を明らかにすることである.

- 1.平成13年度のスキー実習は平成12年度と同様に効果的に実施されていたか.
- 2.「スキーにおける基礎的な理論をより理解させる」点は改善が図れたか.

以上の点を平成12年度および13年度の学生評価の比較から検討する.

### III. 改善策の検討

#### 1. 技術チェックリストの活用

基礎的な理論の一部にスキーの技術体系の理解がある. さらに各学生がその技術体系のどの技術を獲得しているかを把握することは次の技術挑戦への導入ともなるはずである.

本学スキー実習においてはこの技術体系を日本スキー教程<sup>5)6)</sup>を参考に技術チェックリスト(資料1)として森尻がまとめた.

これは実習の日程に沿って学生が自己の技術レベルを自己判定し, 記入するようになっている. また,

1) 教養部

2) 教養部非常勤講師

このチェックリストは講習ごとに練習内容や質問事項を記入する実習日誌に添付されており、各班の担当教員が学生から提出された実習日誌を毎日チェックすることになっている。

この技術チェックリストによる学生へのフィードバックが確実に行われれば、学生の技術体系の理解と自己のレベルの正確な把握に寄与するだろう。これまで、技術チェックリストは各班の担当教員への指導方法や内容の限定につながりかねないため、参考資料程度にとどめていた。しかしながら、今回は学生の基礎的理論のより深い理解を目指し、実習日誌とともにチェックリストによるフィードバックを積極的に実施するよう要請した。

2.基礎理論テストの内容改善

3泊4日の学外集中実習の3日目の夜に筆記による基礎理論テストが実施される。内容はスキー板の性能やターン運動と身体の動きの関連などである。これらの理論講習は事前実習の一部として資料とVTRを用いて実施されている。

今回はこのテスト問題を検討し、難易度を高める

ことにより学習の度合いの高い者がより達成感を強くもてるものにした。

IV. 研究の方法

本研究は、平成12年度自然とスポーツ（スキー実習）の参加者193名および平成13年度の参加者139名を対象に質問紙調査を実習の前で実施した。

質問紙は実習目的に対応した項目で構成されており、各年度とも同じ内容である。

なお、質問紙の回収は事前調査が現地移動中の貸切バス内、事後調査が宿舎（東京家政大学妙高緑苑荘）内であったためすべて100%であった。

V. 結果および考察

表-1はスキー実習の事前(pre)および事後(post)における学生評価を年度別に比較したものである。この表に示すように、平成12年度preと平成13年度preの差をt検定を用いて比較したところすべての項目において有意な差はみられなかった。このことから実習参加前の意識や態度は平成12年度および13年度ともに同質の学生の集団であるといえる。

表-1 実習の事前および事後における学生評価の年度別比較

|                                 |           | 平成12年度<br>pre | 平成13年度<br>pre | 平成12年度<br>post | 平成13年度<br>post |
|---------------------------------|-----------|---------------|---------------|----------------|----------------|
| スキーレベル                          | 平均値(S.D.) | 2.70(1.20)    | 2.83(1.27)    | 4.13(1.11)     | 4.00(1.15)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 1)新しいスキー技術に意欲的に挑戦したい            | 平均値(S.D.) | 4.07(0.83)    | 4.25(0.80)    | 4.51(0.74)     | 4.57(0.58)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 2)スキー講習の課題には積極的に取り組みたい          | 平均値(S.D.) | 4.27(0.71)    | 4.36(0.68)    | 3.70(0.91)     | 3.83(0.85)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 3)スキーは楽しい                       | 平均値(S.D.) | 4.04(0.88)    | 4.26(0.74)    | 4.63(0.65)     | 4.71(0.49)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 4)何歳になってもスキーを続けていきたい            | 平均値(S.D.) | 3.80(0.95)    | 3.91(0.87)    | 4.31(0.86)     | 4.29(0.79)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 5)スキー実習にかかわらず、健康管理には気を配っている     | 平均値(S.D.) | 3.41(0.95)    | 3.50(0.90)    | 4.58(0.66)     | 4.47(0.75)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 6)スキーにどの程度耐えられる体力を持っているか知っている   | 平均値(S.D.) | 2.75(0.94)    | 2.81(0.96)    | 3.65(0.81)     | 3.65(0.85)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 7)現在の体力を維持・増進したい                | 平均値(S.D.) | 4.22(0.86)    | 4.29(0.74)    | 4.53(0.68)     | 4.55(0.60)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 8)体力を維持・増進する方法を知っている            | 平均値(S.D.) | 2.90(0.85)    | 2.96(0.93)    | 3.32(0.82)     | 3.36(0.83)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 9)自己のスキー技術レベルを正しく知っている          | 平均値(S.D.) | 2.51(0.97)    | 2.65(1.02)    | 3.59(0.79)     | 3.51(0.71)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 10)私は自分でコントロールできるスピードで滑降する      | 平均値(S.D.) | 3.01(1.20)    | 3.04(1.18)    | 3.58(0.93)     | 3.57(0.84)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 11)危険な滑降は絶対にしない                 | 平均値(S.D.) | 4.12(0.96)    | 4.12(0.97)    | 4.07(0.98)     | 4.00(0.97)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 12)スキー板の性能を理解している               | 平均値(S.D.) | 2.56(0.85)    | 2.67(0.76)    | 3.69(0.78)     | 3.68(0.63)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 13)どのようにしたらターンができるかを説明できる       | 平均値(S.D.) | 2.46(1.05)    | 2.58(0.92)    | 3.85(0.77)     | 3.83(0.65)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 14)スキーの技術体系を把握している              | 平均値(S.D.) | 2.05(0.89)    | 2.17(0.76)    | 3.13(0.84)     | 3.29(0.74)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 15)私は次に挑戦する技術とその練習方法を知っている      | 平均値(S.D.) | 1.88(0.78)    | 2.12(0.76)    | 3.22(0.95)     | 3.17(0.79)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 16)講習班や宿舎内でリーダーシップを発揮してみんなをまとめた | 平均値(S.D.) | 2.35(0.90)    | 2.58(0.82)    | 2.77(0.89)     | 2.69(0.90)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 17)講習班の人達に協力して行動したい             | 平均値(S.D.) | 4.52(0.67)    | 4.58(0.64)    | 4.35(0.74)     | 4.27(0.78)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |
| 18)私は集団生活のマナーを守る                | 平均値(S.D.) | 4.56(0.62)    | 4.54(0.65)    | 4.52(0.70)     | 4.47(0.64)     |
|                                 | t検定結果     |               |               |                |                |

△\*:1%水準で有意に向上  
▽\*:1%水準で有意に下降

また、平成12年度と13年度のpost間における比較においてもすべての項目に有意な差はみられなかった。このことから学生評価における実習の効果は年度による差がなかったことがわかる。

特に項目12), 13), 14), 15)は基礎的な理論に関わる項目で12年度より高い学生評価が期待されたが、差は認められなかった。

表-2は、各年度のpreとpostの学生の意識や態度の変化をみたものである。平成12年度においては19項目中15項目において1%水準で有意な向上がみられた。有意(1%水準)に下降した項目は2項目、有意差がみられなかった項目は2項目であった。このように、ほとんどの項目において有意な向上を示していることから平成12年度のスキー実習はほぼ目的を達成しており、効果的であったことを昨年度報告した。

一方、13年度においては19項目中14項目において有意(1%水準)な向上がみられた。有意に下降した項目は2項目あり、12年度と同じ項目であった。有意差がみられなかった項目は3項目あり、12年度より1項目増加し

ている。これらの結果から平成13年度のスキー実習は12年度と同様にほぼ目的を達成しており、効果的な実習であったことがわかる。

しかしながら、平成12年度に挙げられた三つの改善点については昨年度と同様の結果であることから改善が図れなかったといえる。特に項目12), 13), 14), 15)の基礎的な理論の修得に関する項目においては、有意な向上がみられるものの到達度は他の項目より低く、表-1の結果においても12年度より顕著な改善が図られてはいないことがわかる。このような結果の原因として担当教員から学生へのフィードバックが確実でなかったことが考えられる。今後は学生へフィードバックする方法論を検討しなければならない。さらに技術チェックリスト以外にも学生へ基礎的な理論や技術体系について伝えていく場面を多く設定することも必要であるとする。ゲレンデにおける講習中にも担当教員から随時アプローチすることも効果的であると思われる。また、スキーのレベルは異なっても指導者間で学生の基礎理論習得の到達段階について共通理解を得ておく必要もあろう。

表-2 実習前後の学生評価の変動における年度別比較

| スキーレベル                          | 平均値(S.D.)<br>t検定結果 | 平成12年度     |            | 平成13年度     |            |
|---------------------------------|--------------------|------------|------------|------------|------------|
|                                 |                    | pre        | post       | pre        | post       |
|                                 |                    | 2.70(1.20) | 4.13(1.11) | 2.83(1.27) | 4.00(1.15) |
| 1)新しいスキー技術に意欲的に挑戦したい            |                    | 4.07(0.83) | 4.51(0.74) | 4.25(0.80) | 4.57(0.58) |
| 2)スキー講習の課題には積極的に取り組みたい          |                    | 4.27(0.71) | 3.70(0.91) | 4.36(0.68) | 3.83(0.85) |
| 3)スキーは楽しい                       |                    | 4.04(0.88) | 4.63(0.65) | 4.26(0.74) | 4.71(0.49) |
| 4)何歳になってもスキーを続けていたい             |                    | 3.80(0.95) | 4.31(0.86) | 3.91(0.87) | 4.29(0.79) |
| 5)スキー実習にかかわらず、健康管理には気を配っている     |                    | 3.41(0.95) | 4.58(0.66) | 3.50(0.90) | 4.47(0.75) |
| 6)スキーにどの程度耐えられる体力を持っているか知っている   |                    | 2.75(0.94) | 3.65(0.81) | 2.81(0.96) | 3.65(0.85) |
| 7)現在の体力を維持・増進したい                |                    | 4.22(0.86) | 4.53(0.68) | 4.29(0.74) | 4.55(0.60) |
| 8)体力を維持・増進する方法を知っている            |                    | 2.90(0.85) | 3.32(0.82) | 2.96(0.93) | 3.36(0.83) |
| 9)自己のスキー技術レベルを正しく知っている          |                    | 2.51(0.97) | 3.59(0.79) | 2.65(1.02) | 3.51(0.71) |
| 10)私は自己でコントロールできるスピードで滑降する      |                    | 3.01(1.20) | 3.58(0.93) | 3.04(1.18) | 3.57(0.84) |
| 11)危険な滑降は絶対にしない                 |                    | 4.12(0.96) | 4.07(0.98) | 4.12(0.97) | 4.00(0.97) |
| 12)スキー板の性能を理解している               |                    | 2.56(0.85) | 3.69(0.78) | 2.67(0.76) | 3.68(0.63) |
| 13)どのようにしたらターンができるかを説明できる       |                    | 2.46(1.05) | 3.85(0.77) | 2.58(0.92) | 3.83(0.65) |
| 14)スキーの技術体系を把握している              |                    | 2.05(0.89) | 3.13(0.84) | 2.17(0.76) | 3.29(0.74) |
| 15)私は次に挑戦する技術とその練習方法を知っている      |                    | 1.88(0.78) | 3.22(0.95) | 2.12(0.76) | 3.17(0.79) |
| 16)講習班や宿舎内でリーダーシップを発揮してみんなをまとめた |                    | 2.35(0.90) | 2.77(0.89) | 2.58(0.82) | 2.69(0.90) |
| 17)講習班の人達に協力して行動したい             |                    | 4.52(0.67) | 4.35(0.74) | 4.58(0.64) | 4.27(0.78) |
| 18)私は集団生活のマナーを守る                |                    | 4.56(0.62) | 4.52(0.70) | 4.54(0.65) | 4.47(0.64) |

\*\*\*:1%水準で有意に向上  
 \*\*:1%水準で有意に下降

基礎理論テストにおいては、テストの結果や平均点を  
を実習期間中に伝えたり、実習の事前と事後にテストを  
実施しその伸びを見ることにより知識の習得具合を把握  
させることなども考えたい。

また、今後は自然とスポーツで開設されている他の種  
目についてもスキー実習と同様に効果測定を実施しながら  
改善を図っていかねばならないと思われる。さらに、  
各種目の特性が明らかになれば学生への履修指導にも役  
立つと考えられる。

#### VI. まとめ

本研究の目的は、平成13年度のスキー実習が12年度  
と同様に効果的であったかを確認するとともに、基礎的  
理論をより高いレベルで習得させる方策の効果を検証す  
ることにある。学生評価の結果を両年度で比較したところ  
次のような結果を得られた。すなわち、①平成13年  
度のスキー実習は12年度と同様にほぼ目的を達成して  
おり、効果的であったといえる。②基礎的な理論の習得  
については各年度で有意に向上を示したものの、12年  
度と13年度の結果に差はなかった。このことから技術  
チェックリストを用いたフィードバックの方法や基礎理  
論テストの内容について再度検討しなければならないこ  
とが示唆された。

#### 引用および参考文献

- 1) 榎本直文, 綿祐二, 桜井智野雨, 平野貴也: 大学体  
育における学生の授業評価 7, 東京都立大学体育学  
研究, 第23号, pp.21-30(1998)
- 2) 榎本直文, 綿祐二: 大学体育における学生の授業評  
価: 6, 東京都立大学体育学研究, 第22号, pp.27-  
38(1997)
- 3) 松島宏, 北岡和彦: 体育科目集中授業に対する授業  
評価とその評価の背景について, 武蔵野女子大学紀  
要, 32(2), pp.209-218(1997)
- 4) 木村博人, 福島邦男, 大橋信行, 川和田毅, 坂入明,  
森尻強, 梅谷千代子: 学生の授業評価からみた本学  
スキー実習の授業改善への取り組み, 東京家政大学  
研究紀要, 第42集, pp.31-40(2002)
- 5) 日本スキー教程 [指導実技編]  
スキージャーナル株式会社
- 6) 日本スキー教程 [指導理論編]  
スキージャーナル株式会社

#### Summary

The purpose of this study compared the 2001 with the 2002, and confirmed whether physical education skiing class had effect with the student and the method which made it learn the fundamental theory of the skiing technology in the higher level was verified.

A result is as the following.

- ① Skiing practice in 2002 was effective as well as 2001.
- ② As for learning of the fundamental theory, it was suggested that you had to reexamine it about the contents of the method of the feedback which a technological check list was used for and the foundation theory test.

資料-1

スキー技術のチェック・リスト

(○良い □まあまあ △あと少し!)

| 技術の内容 |    | 練習日程                           | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | MEMO |
|-------|----|--------------------------------|-----|-----|-----|-----|------|
| 1     | 初級 | スキーのかつぎ方                       |     |     |     |     |      |
| 2     | "  | スキーの着脱                         |     |     |     |     |      |
| 3     | "  | ストックの握り方                       |     |     |     |     |      |
| 4     | "  | 歩行のしかた                         |     |     |     |     |      |
| 5     | "  | 推進滑走                           |     |     |     |     |      |
| 6     | "  | 方向変換 ①踏み変え                     |     |     |     |     |      |
| 7     | "  | ②キックターン                        |     |     |     |     |      |
| 8     | "  | 転び方 横側・後方(前方は危険)               |     |     |     |     |      |
| 9     | "  | 起き方 ①平地                        |     |     |     |     |      |
|       |    | ②斜面                            |     |     |     |     |      |
| 10    | "  | 登行 ①股斬・膝斬                      |     |     |     |     |      |
|       |    | ②開脚登行                          |     |     |     |     |      |
| 11    | "  | 直滑降 (姿勢、バランス)                  |     |     |     |     |      |
| 12    | "  | ブルーク ①広いブルーク                   |     |     |     |     |      |
|       |    | ②狭いブルーク                        |     |     |     |     |      |
|       |    | ③懸吊ブルーク(エッジ・角付)                |     |     |     |     |      |
| 13    | "  | 直滑降とブルークの連続                    |     |     |     |     |      |
| 14    | "  | テールの連続押し開き                     |     |     |     |     |      |
| 15    | "  | 斜め・ブルーク ①左谷足ブルーク               |     |     |     |     |      |
|       |    | ②右谷足ブルーク                       |     |     |     |     |      |
| 16    | "  | ブルーク・ボーゲン ①浅まわり                |     |     |     |     |      |
|       |    | ②深まわり                          |     |     |     |     |      |
| 17    | 中級 | ブルークボーゲン ずれの多いものから少ないものへ       |     |     |     |     |      |
| 18    | "  | シュテム・ボーゲン                      |     |     |     |     |      |
| 19    | "  | 斜滑降 ①外向傾姿勢 ②谷足荷重               |     |     |     |     |      |
| 20    | "  | 横滑り ①前方(斜め下方向)                 |     |     |     |     |      |
|       |    | ②真下(谷側)                        |     |     |     |     |      |
|       |    | ③スキーのずらし方                      |     |     |     |     |      |
|       |    | ④スピードの調節                       |     |     |     |     |      |
| 21    | "  | 斜滑降から横滑り 横滑りから斜滑降              |     |     |     |     |      |
| 22    | "  | ブルーク～①浅まわり ②深まわり               |     |     |     |     |      |
|       |    | 山まわり ③ずれの多いものからずれの少ないものへ       |     |     |     |     |      |
| 23    | "  | ブルーク～①浅まわり ②深まわり               |     |     |     |     |      |
|       |    | 谷まわり ③ずれの多いものからずれの少ないものへ       |     |     |     |     |      |
| 24    | "  | シュテム・ターン                       |     |     |     |     |      |
| 25    | 上級 | 斜滑降からの山まわり・直滑降からの山まわり          |     |     |     |     |      |
| 26    | "  | 直滑降からの谷まわり・斜滑降からの谷まわり          |     |     |     |     |      |
| 27    | "  | パラレル・①スピード ②ステップング ③リズム        |     |     |     |     |      |
|       |    | ターン大回り④切れの良いターン(カービングターン)      |     |     |     |     |      |
| 28    | "  | ブルークの小まわり                      |     |     |     |     |      |
| 29    | "  | シュテムの小まわり                      |     |     |     |     |      |
| 30    | "  | ショート・①スピード ②ステップング ③リズム        |     |     |     |     |      |
|       |    | ターン(ストックワ-ク) ④切れの良いターンカービングターン |     |     |     |     |      |
| 31    | "  | 応用・発展の練習・総合滑走                  |     |     |     |     |      |
|       |    | A・ステップングターン・ストックワ-ク・ペンディングターン  |     |     |     |     |      |
| 32    | "  | B・スキッチング・スキッピング・カービング・カービング    |     |     |     |     |      |